

事務事業チェックシート

事務事業No 事業名  
16 大規模災害用備蓄対策事業

[長期総合計画]

分野別目標	4	誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち
政策	4	防災体制の充実
施策	3	災害等に強い体制づくりの推進
取組方針	3	被災者生活支援体制の整備

事業種別	継続	
事業期間	～	
事業実施の根拠法令		
関連個別計画	和歌山市地域防災計画	
担当課・担当課長 (Tel)	総合防災課	川崎 勝 (435-1199)
関連課		

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	○
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計	一般会計		
	款	総務費		
	項	総務管理費		
	目	総合防災費		
	大事業	総合防災事業		
事項	大規模災害用備蓄対策事業			

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的 (「誰・何」をどういう状態にする) ための事業か)	事業内容				
	東海・東南海・南海地震などの大規模災害時に備え、最低限必要な物資の備蓄を行う。	食料、生活用品、資機材等の備蓄を行っている。 備蓄の主なものとして、アルファ化米(5年)、乾パン(5年)、飲料水(10年)、粉ミルク(1.5年)、毛布、オムツ、生理用品、ブルーシートなどを備蓄しており、消費期限のあるものは防災訓練などで有効活用しながら順次入れ替えを行っている。 今後、和歌山市地域防災計画に基づく物資を追加する予定				
実施内容		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
		①備蓄物資の調達 アルファ化米11,600食、乾パン4,800缶、飲料水20,016本、粉ミルク600缶、公共下水道接続型仮設トイレ65台 ②備蓄物資の管理(期限切れに伴う有効活用を含む)	①備蓄物資の調達 アルファ化米9,600食、乾パン4,800缶、飲料水20,016本、粉ミルク596缶、公共下水道接続型仮設トイレ25台 ②備蓄物資の管理(期限切れに伴う有効活用を含む)	①備蓄物資の調達 避難者想定数(88,300人)に基づく備蓄物資の追加調達 ②備蓄物資の管理(期限切れに伴う有効活用を含む)	①備蓄物資の調達 避難者想定数(88,300人)に基づく備蓄物資の追加調達 ②備蓄物資の管理(期限切れに伴う有効活用を含む)	①備蓄物資の調達 避難者想定数(88,300人)に基づく備蓄物資の追加調達 ②備蓄物資の管理(期限切れに伴う有効活用を含む)

2 事業コスト

事業費等(千円)	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	13,263	11,144	9,729	7,333	22,067	19,865	10,774		10,774	
伸び率(%)	-	-	▲26.6%	▲34.2%	126.8%	170.9%	▲51.2%	▲100.0%	0.0%	-
人件費	正規職員	11,488	14,152	12,138	11,204	10,912	11,792	11,792	11,792	11,792
	正規職員以外	1,005	1,077	1,077	1,400	983	1,178	1,527	1,527	1,527
	小計	12,493	15,229	13,215	12,604	11,895	12,970	13,319	13,319	13,319
国庫支出金										
県支出金	3,644	2,909	2,070	1,167	2,074	2,021	1,884		1,884	
市債										
その他										
一般財源(税等)	13,263	8,235	7,653	6,166	19,993	17,844	8,890		8,890	
所要人数(人)	正規職員	1.54	1.90	1.63	1.47	1.43	1.48	1.48	1.48	1.48
	正規職員以外	0.48	0.57	0.57	0.67	0.48	0.48	0.57	0.57	0.57
主な予算内訳	消耗品費5,500千円、業務用器具費3,769千円									

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
備蓄食料の確保(平成28年度より目標数変更 72,000→106,000)	食		目標値	72,000	72,000	95,198	103,426	139,318
			実績値	74,620	73,834	102,808		
			達成度(%)	103.6%	102.5%	107.9%		
備蓄飲料水(500mlペットボトル)の確保(平成28年度より目標数変更 72,000→176,600)	本		目標値	72,000	72,000	133,248	131,088	174,384
			実績値	96,456	96,456	130,872		
			達成度(%)	134.0%	134.0%	98.2%		
食料の備蓄率	%		目標値	100	100	89.81	97.6	131.4
			実績値	103.6	103	92		
			達成度(%)	103.6%	102.5%	102.4%		
飲料水の備蓄率	%		目標値	100	100	75.45	74.2	98.7
			実績値	134	134	74.1		
			達成度(%)	134.0%	134.0%	98.2%		

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している(90%以上)	○	おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				○
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	<p>東海・東南海・南海3連動地震発生時の避難者想定数が平成26年度末に24,000人から88,300人に引き上げられた。備蓄方針として、上記の避難者想定数に基づき、輸送手段の障害から輸送ルート等が確立するまでの3日間に必要とされる「生命の維持と最低限度の生活の維持」に必要な物資を備蓄していく。(市備蓄1日(3食)、県備蓄1日(3食)、市民備蓄1日(3食) ※市備蓄1日(3食)の内、2/3(2食)は流通備蓄でまかなう)。</p>
見直し・改善内容	<p>食料備蓄の拡充を図りながら、生活必需品及び資機材備蓄を推進する。</p>